

四半期報告書

(第47期第1四半期)

自 2018年5月1日

至 2018年7月31日

株式会社ロック・フィールド

神戸市東灘区魚崎浜町15番地2

(E00482)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	4

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(5) 大株主の状況	5
(6) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6

第4 経理の状況

7

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	10
四半期連結包括利益計算書	11

2 その他

13

第二部 提出会社の保証会社等の情報

14

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2018年9月12日
【四半期会計期間】	第47期第1四半期（自 2018年5月1日 至 2018年7月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 岩田 弘三
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435－2800
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 伊澤 修
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435－2800
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 伊澤 修
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第1四半期連結 累計期間	第47期 第1四半期連結 累計期間	第46期
会計期間	自2017年5月1日 至2017年7月31日	自2018年5月1日 至2018年7月31日	自2017年5月1日 至2018年4月30日
売上高 (百万円)	12,703	12,531	51,536
経常利益 (百万円)	791	510	3,159
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	518	326	2,086
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	513	316	2,097
純資産額 (百万円)	26,305	27,356	27,651
総資産額 (百万円)	31,994	33,019	33,696
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	19.51	12.31	78.55
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	82.2	82.9	82.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当第1四半期連結累計期間は、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していないため、キャッシュ・フローの状況に関する記載はしていません。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間（2018年5月1日～2018年7月31日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移したものの、米国による保護主義的な通商政策や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響が懸念され、先行きは不透明な状況が続きました。

当社グループを取り巻く経営環境は、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、台風、全国的な猛暑を原因とした一時的な売上の減少に加え、労働力不足の深刻化と人材の確保・定着等を目的とした人事制度改革による人件費の上昇など厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、当社は「The Mirai Salad Company」として、「サラダ」を通してそうざいの可能性を追求し、「食と健康」という新たな価値創造に取り組んでまいりました。また、ゴールデンウィークや母の日などハレの日に合わせた高付加価値商品、素材や調理法にこだわった季節商品の販売強化に取り組みました。

ブランド別の売上は次のとおりであります。

ブランド		2018年4月期 第1四半期（連結）		2019年4月期 第1四半期（連結）		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
R F 1		百万円	%	百万円	%	%
	サラダ	4,607	36.3	4,557	36.4	98.9
	フライ	1,811	14.2	1,745	13.9	96.4
	その他そうざい	1,840	14.5	1,795	14.3	97.6
	小計	8,259	65.0	8,099	64.6	98.1
グリーン・グルメ		2,026	16.0	2,039	16.3	100.7
いとはん		919	7.2	880	7.0	95.8
神戸コロッケ		716	5.6	713	5.7	99.6
ベジテリア		404	3.2	381	3.1	94.4
融合		305	2.4	303	2.4	99.2
その他		72	0.6	113	0.9	157.8
合計		12,703	100.0	12,531	100.0	98.6

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「R F 1」ブランドにおきましては、「サラダ」を通して、健康的な食を提案する「サラダから、健康をはじめよう。S a l a d F i r s t」のメッセージを発信しました。その一環として、「緑の30品目サラダ」「緑黄色野菜のサラダ」といった定番商品のブラッシュアップを行い、野菜の栄養や、健康的な食べ方の提案を行いました。また、「R F 1」ブランドから「グリーン・グルメ」ブランドへの業態変更により、売上高32百万円が「R F 1」ブランドから「グリーン・グルメ」ブランドの売上高となり、売上高は8,099百万円（前年同期比1.9%減）となりました。

「グリーン・グルメ」ブランドにおきましては、セレクトショップとして「R F 1」ブランドのサラダを中心とした品揃えに、「いとはん」ブランド、「融合」ブランドのサラダ・料理の販売強化を行いました。また、第43期より進めておりました「R F 1」ブランドから「グリーン・グルメ」ブランドへの業態変更の影響などにより、売上高は2,039百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、「カラダよろこぶ あわせ買い」をテーマに、紫外線が強くなる時期など季節に必要な栄養素や、日本人に不足しがちな栄養素が摂取できる商品の提案を行いました。なかでも「アスパラガス」「とうもろこし」「なす」といった季節感のある素材を使用したサラダが売上に貢献しましたが、売上高は880百万円（前年同期比4.2%減）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、「世の中にないコロッケ屋を目指して」をテーマに、コロッケの付加価値を向上させる商品の展開と、コロッケを中心とした豊かな食卓を提案しました。併せて、「大航海コロッケシリーズ」として、世界各国で見つけた食材で作る新しいコロッケシリーズの販売を開始しましたが、売上高は713百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、「KENKOサポート」をテーマに、季節ごとに不足しがちな野菜や果物を手軽に摂れるジュースの提案を行いました。併せて、ベジテリア15周年記念として、毎月、季節のこだわりスープの販売を開始しましたが、売上高は381百万円（前年同期比5.6%減）となりました。

「融合」ブランドにおきましては、アジアンスラダの更なる進化を目的に、ココロとカラダが癒される「癒しサラダ」や、素材の良さを引き出す調理技術を駆使した「おかずになるサラダ」の提案を行いました。売上高は303百万円（前年同期比0.8%減）となりました。

この結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高12,531百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益492百万円（前年同期比35.8%減）、経常利益510百万円（前年同期比35.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益326百万円（前年同期比36.9%減）となりました。

なお、当社グループはそうざい事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（注）上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べて676百万円減少し、33,019百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少284百万円、原材料及び貯蔵品の減少71百万円等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末と比べて382百万円減少し、5,662百万円となりました。これは主に、法人税等の支払による未払法人税等の減少430百万円、賞与引当金の減少216百万円等によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末と比べて294百万円減少し、27,356百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加326百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少610百万円等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は82.9%、1株当たり純資産額は1,030円00銭となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は47百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第1四半期連結累計期間において、新たに経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、主に百貨店との売上に関する契約等に基づき安定的に売上金の回収を行っております。また、直営店におきましては現金販売が中心となっているため、早期にキャッシュの回収を行うことができ、それにより仕入及び人件費の支払に関する運転資金は売上金の回収から得られたキャッシュから支出可能な状況にあります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数（株） （2018年7月31日）	提出日現在発行数（株） （2018年9月12日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	26,788,748	26,788,748	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	26,788,748	26,788,748	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （株）	発行済株式 総数残高 （株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
2018年5月1日～ 2018年7月31日	—	26,788,748	—	5,544	—	5,861

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2018年4月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

2018年7月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 228,700	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 26,546,900	265,469	—
単元未満株式	普通株式 13,148	—	1 単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	26,788,748	—	—
総株主の議決権	—	265,469	—

- (注) 1. 「完全議決権株式（その他）」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,400株含まれております。また、「議決権の数」の欄には当該株式に係る議決権の数24個が含まれております。
2. 「単元未満株式」の「株式数」の欄には自己株式33株が含まれております。

②【自己株式等】

2018年7月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎 浜町15番地2	228,700	—	228,700	0.85
計	—	228,700	—	228,700	0.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2018年5月1日から2018年7月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年5月1日から2018年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,405	13,120
売掛金	4,344	4,194
製品	60	62
仕掛品	95	95
原材料及び貯蔵品	547	476
その他	237	235
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	18,690	18,183
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,309	7,302
土地	2,948	2,948
その他（純額）	2,613	2,595
有形固定資産合計	12,870	12,846
無形固定資産		
その他	236	237
無形固定資産合計	236	237
投資その他の資産		
その他	1,909	1,762
貸倒引当金	△10	△10
投資その他の資産合計	1,899	1,752
固定資産合計	15,005	14,835
資産合計	33,696	33,019
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,192	1,260
1年内返済予定の長期借入金	3	1
未払法人税等	575	144
賞与引当金	505	288
その他	2,937	3,171
流動負債合計	5,213	4,866
固定負債		
長期借入金	115	115
その他	716	681
固定負債合計	831	796
負債合計	6,045	5,662

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年 4 月30日)	当第 1 四半期連結会計期間 (2018年 7 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	16,300	16,016
自己株式	△211	△211
株主資本合計	27,494	27,210
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	100	90
為替換算調整勘定	56	55
その他の包括利益累計額合計	156	146
純資産合計	27,651	27,356
負債純資産合計	33,696	33,019

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2017年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年7月31日)
売上高	12,703	12,531
売上原価	5,108	5,192
売上総利益	7,595	7,339
販売費及び一般管理費	6,828	6,847
営業利益	766	492
営業外収益		
受取配当金	4	5
保険配当金	17	9
その他	3	4
営業外収益合計	25	19
営業外費用		
その他	1	0
営業外費用合計	1	0
経常利益	791	510
税金等調整前四半期純利益	791	510
法人税等	272	183
四半期純利益	518	326
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	518	326

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2017年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年7月31日)
四半期純利益	518	326
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	△9
為替換算調整勘定	0	△0
その他の包括利益合計	△4	△10
四半期包括利益	513	316
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	513	316
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2017年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年7月31日)
減価償却費	388百万円	408百万円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年5月1日 至 2017年7月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年7月27日 定時株主総会	普通株式	610	23	2017年4月30日	2017年7月28日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年5月1日 至 2018年7月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年7月26日 定時株主総会	普通株式	610	23	2018年4月30日	2018年7月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2017年5月1日 至 2017年7月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自 2018年5月1日 至 2018年7月31日)

当社グループは、そうざい事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2017年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年7月31日)
1株当たり四半期純利益	19円51銭	12円31銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	518	326
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	518	326
普通株式の期中平均株式数(株)	26,560,049	26,560,015

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年9月4日

株式会社ロック・フィールド

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

伊東 昌一

印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

川添 健史

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの2018年5月1日から2019年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2018年5月1日から2018年7月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年5月1日から2018年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の2018年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。